

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2021.8.2-8

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

➤ 2日 月曜

ピレモン

1:15 彼がしばらくの間あなたから離されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。

1:16 もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、すなわち、愛する兄弟としてです。特に私にとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、肉においても主にあって、そうではありませんか。

1:17 ですから、もしあなたが私を親しい友と思うなら、私を迎えるように彼を迎えてやってください。

1:18 もし彼があなたに対して損害をかけたか、負債を負っているのであれば、その請求は私にしてください。

1:19 この手紙は私の自筆です。私がそれを支払います。・・あなたが今のようになれたのもまた、私によるのですが、そのことについては何も言いません。・・

1:20 そうです。兄弟よ。私は、主にあって、あなたから益を受けたいのです。私の心をキリストにあって、元気づけてください。

1:21 私はあなたの従順を確信して、あなたにこの手紙を書きました。私の言う以上のことをして下さるあなたであると、知っているからです。

1:22 それにまた、私の宿の用意もしておいてください。あなたがたの祈りによって、私もあなたがたのところに行けることと思っています。

1:23 キリスト・イエスにあって私とともに囚人となっているエパfrasが、あなたによろしくと言っています。

1:24 私の同労者たちであるマルコ、アリスト



ルコ、デマス、ルカからもよろしくと言っています。

1:25 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊とともにありますように。

ピレモンが自分の被害を考えたら、それは怒りしかないのですが、ここでパウロは神様の視点で見ように勧めています。「彼がしばらくの間あなたから離されたのは、たぶん、あなたが彼を永久に取り戻すためであったのでしょう。」と述べていますが、「ためであった」と表現されているその目的はまさに主の目的です。

また「請求は私にしてください」と、パウロは自分が責任を持つことを明言しています。もっともそれでピレモンが請求書を送るとは考えづらいのですが、また「そのことについては何も言いません。」といいつつ、結局言っているのはパウロのユーモアと思われれます。相手の心もほぐれることでしょう。またピレモンに宿の手配を頼んでいます。親しさと信頼も表わしているようです。

このように主は新しい人生を始める人に、周囲が心一つにして援助することを喜んでくださいます。何ができるでしょうか。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3日 火曜

士師

1:1 さて、ヨシュアの死後、イスラエル人は主に伺って言った。「だれが私たちのために最初に上って行って、カナン人と戦わなければならないのでしょうか。」

1:2 すると、主は仰せられた。「ユダが上って行かなければならない。見よ。わたしは、その地を彼の手に渡した。」

1:3 そこで、ユダは自分の兄弟シメオンに言った。「私に割り当てられた地に私といっしょに上ってください。カナン人と戦うのです。私も、あなたに割り当てられた地にあなたといっしょに行きます。」そこでシメオンは彼といっしょに行った。

1:4 ユダが上って行ったとき、主はカナン人とペリジ人を彼らの手に渡されたので、彼らはベゼクで一万人を打った。

1:5 彼らはベゼクでアドニ・ベゼクに出会ったとき、彼と戦ってカナン人とペリジ人を打った。

1:6 ところが、アドニ・ベゼクが逃げたので、彼らはあとを追って彼を捕え、その手足の親指を切り取った。

1:7 すると、アドニ・ベゼクは言った。「私の食卓の下で、手足の親指を切り取られた七十人の王たちが、パンくずを集めていたものだ。神は私がしたとおりのことを、私に報いられた。」それから、彼らはアドニ・ベゼクをエルサレムに連れて行ったが、彼はそこで死んだ。

1:8 また、ユダ族はエルサレムを攻めて、これを取り、剣の刃でこれを打ち破り、町に火をつけた。

1:9 その後、ユダ族は山地やネゲブや低地に



住んでいるカナン人と戦うために下って行った。

1:10 ユダはヘブロンに住んでいるカナン人を攻めた。ヘブロンの名は以前はキルヤテ・アルバであった。彼らはシェシャイとアヒマンとタルマイを打ち破った。

出エジプト後、カナンに入ったイスラエルでした。その後神を忘れては苦難となり主に助けを求め、主が召した士師によって助けられてはまた主を忘れる…という連続でした。その不信仰とさばきとが士師記のテーマです。

ここではユダたちがいかにしてエルサレムなどを攻め取ったが記されており(1~15)、主の約束を信じてチャレンジする者には勝利があることが証されています。

しかしながら戦車を恐れるなどして敵を追わなかった場合(19, 21)は悩みの種を残すことになりました。主の約束を得るためには、主を信じてチャレンジし、勝ち取るのだと知りましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



4日 水曜

士師

1:11 ユダはそこから進んでデビルの住民を攻めた。デビルの名は以前はキルヤテ・セフェルであった。

1:12 そのときカレブは言った。「キルヤテ・セフェルを打って、これを取る者には、私の娘アクサを妻として与えよう。」

1:13 ケナズの子で、カレブの弟オテニエルがそれを取ったので、カレブは娘アクサを彼に妻として与えた。

1:14 彼女がとつぐとき、オテニエルは彼女をそそのかして、畑を父に求めることにした。彼女がろばから降りたので、カレブは彼女に、「何がほしいのか。」と尋ねた。

1:15 アクサは彼に言った。「どうか私に祝いの品を下さい。あなたはネゲブの地に私を送るので、水の泉を私に下さい。」そこでカレブは、上の泉と下の泉とを彼女に与えた。

1:16 モーセの義兄弟であるケニ人の子孫は、ユダ族といっしょに、なつめやしの町からアラデの南にあるユダの荒野に上って行って、民とともに住んだ。

1:17 ユダは兄弟シメオンといっしょに行って、ツェファテに住んでいたカナン人を打ち、それを聖絶し、その町にホルマという名をつけた。

1:18 ついで、ユダはガザとその地域、アシュケロンとその地域、エクロンとその地域を攻め取った。

1:19 主がユダとともにおられたので、ユダは山地を占領した。しかし、谷の住民は鉄の戦車を持っていたので、ユダは彼らを追い払わなかった。



1:20 彼らはモーセが約束したとおり、ヘブロンをカレブに与えたので、カレブはその所からアナクの三人の息子を追い払った。

1:21 ベニヤミン族はエルサレムに住んでいたエブス人を追い払わなかったので、エブス人は今日までベニヤミン族といっしょにエルサレムに住んでいる。

オテニエルは勝利を得、さらにアクサによって泉を得ました。これは良い悪いの問題ではなく、戦って勝利を得る者には、大きな恵みがあるという事例です。私たちは人生において神様から約束が与えられていますが、それは何もせずに手に入るというのではなく、すでに与えられていると信じて、それを取りに行くチャレンジが必要なのです。ここに神様のご計画と、私たち人間の働きがあります。

ユダは山地を占領しましたが、戦車を恐れてそれ以上の勝利をあきらめてしまいました。その結果、その住民が後にイスラエルの悩みとなるのです。私たちは、主の命令を完全に遂行して、恵みと安心を得るようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



5日 木曜

士師

1:22 ヨセフの一族もまた、ベテルに上って行った。主は彼らとともにおられた。

23 ヨセフの一族はベテルを探った。この町の名は以前はルズであった。

24 見張りの者は、ひとりの人がその町から出て来るのを見て、その者に言った。「この町の出入口を教えてください。私たちは、あなたにまことを尽くすから。」

25 彼が町の出入口を教えたので、彼らは剣の刃でこの町を打った。しかし、その者とその氏族の者全部は自由にやった。

26 そこで、その者はヘテ人の地に行って、一つの町を建て、その名をルズと呼んだ。これが今日までその名である。

27 マナセはベテ・シェアンとそれに属する村落、タナクとそれに属する村落、イブレアムの住民とそれに属する村落、メギドの住民とそれに属する村落、メギドの住民とそれに属する村落は占領しなかった。

28 イスラエルは、強くなってから、カナン人を苦役に服させたが、彼らを追い払ってしまうことはなかった。

29 エフライムはゲゼルの住民カナン人を追い払わなかった。それで、カナン人はゲゼルで彼らの中に住んだ。

30 ゼブルンはキテロンの住民とナハラルの住民を追い払わなかった。それで、カナン人は彼らの中に住み、苦役に服した。

31 アシェルはアコの住民や、シドンの住民や、またマハレブ、アクジブ、ヘルバ、アフェク、レホブの住民を追い払わなかった。

32 そして、アシェル人は、その土地に住むカナン人の中に住みついた。彼らを追い払わ

なかったからである。

33 ナフタリはベテ・シェメシュの住民やベテ・アナテの住民を追い払わなかった。そして、その土地に住むカナン人の中に住みついた。しかし、ベテ・シェメシュとベテ・アナテの住民は、彼らのために苦役に服した。

34 エモリ人はダン族を山地のほうに圧迫した。エモリ人は、彼らの谷に降りて来ることを許さなかった。

35 こうして、エモリ人はハル・ヘレスと、アヤロンと、シャルビムに住みとおした。しかし、ヨセフの一族が勢力を得るようになると、彼らは苦役に服した。

36 エモリ人の国境はアクラビムの坂から、セラを経て、上のほうに及んだ。

エジプトでは奴隷の民で、生まれた男子は皆殺しという危険にさらされ、また逃れてきた荒野では飢えと渇き、そして他民族の攻撃に悩まされてきたイスラエルの民でしたが、ここに来てようやく自分たちの土地を手に入れることができるようになりました。しかしそれは話し合いのできるものではなく、命を賭けて戦わなければならないものです。

またそれは信仰の戦いでもありました。先住の民もまた戦いによって手に入れた土地ではありましたが、彼らは偶像異教の民であり、中には子どもを焼き殺して神々にささげるというものまであったのです。神様はそのような民を全く追い払うようにせよと命じましたが、それは彼らの異教からの影響を排除するためでした。

しかしヨセフ族はベテルを策略によって簡単に手に入れたゆえに、神の命令を守らずに異教の民を残してしまいました。そしてマナセ以下の部族もまた同じ事をしてしまったのです。

簡単に目的を達成できることは良いことです。



しかしそれで神の恵みや助けを忘れて、その御心までも忘れてしまってはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6日 金曜

士師



- 2:1 さて、主の使いがギルガルからボキムによって来て言った。「わたしはあなたがたをエジプトから上らせて、あなたがたの先祖に誓った地に連れて来て言った。『わたしはあなたがたとの契約を決して破らない。』」
- 2 あなたがたはこの地の住民と契約を結んではならない。彼らの祭壇を壊さなければならない。』とところが、あなたがたはわたしの声に聞き従わなかった。なぜこのようなことをしたのか。
- 3 それゆえわたしは言う。『わたしはあなたがたの前から彼らを追い出さない。彼らはあなたがたの敵となり、彼らの神々はあなたがたにとってわなとなる。』」
- 4 主の使いがこれらのことばをイスラエル人全体に語ったとき、民は声をあげて泣いた。
- 5 それで、その場所の名をボキムと呼んだ。彼らはその場所で主にいけにえをささげた。
- 6 ヨシュアが民を送り出したので、イスラエル人はそれぞれ地を自分の相続地として占領するために出て行った。
- 7 民は、ヨシュアの生きている間、また、ヨシュアのあとまで生き残って主がイスラエルに行われたすべての大きなわざを見た長老たちの生きている間、主に仕えた。
- 8 主のしもべ、ヌンの子ヨシュアは百十歳で死んだ。
- 9 人々は彼を、エフライムの山地、ガアシュ山の北にある彼の相続の地境、ティムナテ・ヘレスに葬った。
- 10 その同世代の者もみな、その先祖のもとに集められたが、彼らのあとに、主を知らず、また、主がイスラエルのためにされたわざも

知らないほかの世代が起こった。

ギルガルはイスラエルが主に従って割礼を実行した地であり、その信仰に主は答えてエリコでの大勝利を与えてくださいました。しかしボキムでは全く違う状況で、イスラエルは偶像異教の民を受け入れるだけでなく、その祭壇までも残して神に背いたのです。

「彼らの神々はあなたがたにとってわなとなる」というのはわかっていたはずでしたが、神様から改めて聞いたとき、初めてそれを実感し泣いたのです。

神を知っていても、なすべきことを知っているも「なんとかなるだろう」と、従わないでいることもあるのではないのでしょうか。主の御心と、その先にあるものをしっかりと見据える必要があります。

ヨシュアは立派な指導者でしたが、しかし人間であってやがては去って行きました。それでまた民は神とそのわざを忘れてしまいました。やはり人の指導力よりも神ご自身に従うことが必要です。今は神のことばである聖書を読み、神様のご人格と御心に触れて、従うことです。指導者は自分に従うよりも神様に従うようにと、導かなくてはなりません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7日 土曜

士師



2:11 それで、イスラエル人は主の目の前に悪を行い、バアルに仕えた。

12 彼らは、エジプトの地から自分たちを連れ出した父祖の神、主を捨てて、ほかの神々、彼らの回りにいる国々の民の神々に従い、それらを拝み、主を怒らせた。

13 彼らが主を捨てて、バアルとアシュタロテに仕えたので、

14 主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らを略奪者の手に渡して、彼らを略奪させた。主は回りの敵の手に彼らを売り渡した。それで、彼らはもはや、敵の前に立ち向かうことができなかった。

15 彼らがどこへ出て行っても、主の手が彼らにわざわざもたらした。主が告げ、主が彼らに誓われたとおりであった。それで、彼らは非常に苦しんだ。

16 そのとき、主はさばきつかさを起こして、彼らを略奪する者の手から救われた。

17 ところが、彼らはそのさばきつかさにも聞き従わず、ほかの神々に慕って淫行を行い、それを拝み、彼らの先祖たちが主の命令に聞き従って歩んだ道から、またたくまにそれて、先祖たちのように行わなかった。

18 主が彼らのためにさばきつかさを起こされる場合は、主はさばきつかさとともにおられ、そのさばきつかさの生きている間は、敵の手から彼らを救われた。これは、圧迫し、苦しめる者のために彼らがうめいたので、主があわれまれたからである。

19 しかし、さばきつかさが死ぬと、彼らはいつも逆戻りして、先祖たちよりも、いっそう墮落して、ほかの神々に従い、それに仕え、

それを拝んだ。彼らはその行いや、頑迷な生き方を捨てなかった。

20 それで、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がった。主は仰せられた。

「この民は、わたしが彼らの先祖たちに命じたわたしの契約を破り、わたしの声に聞き従わなかったから、

21 わたしもまた、ヨシュアが死んだとき残していた国民を、彼らの前から一つも追い払わない。

22 彼らの先祖たちが主の道を守って歩んだように、彼らもそれを守って歩むかどうか、これらの国民によってイスラエルを試みるためである。」

23 こうして、主はこれらの国民をただちに追い出さず、残しておき、ヨシュアの手に渡されなかったのである。

ここに表されているような「循環」は成長できない民や人間の様子と一緒にです。士師記のテーマはまさにそこにあります。

指導者がいる時など、人間的な条件がある場合は信仰的な行動をしますが、神様のみことばそのものに従っていない場合、その条件がなくなると神の御心を忘れてしまいます(11)。

主の守りや恵は受けられなくなり、または主が不信仰に気づかせようとなさり、わざわざいもたせられることとなります(15)。

そして主に助けを求め、主はあわれんでくださり、さばきつかさ(士師)によって助けてくださるのですが、安心したさばきつかさが死ぬと逆戻りしてしまふのでした(19)。

私たちがそうならないようにと、主はイスラエルの歴史を記して、教訓を与えてくださったのです。人間によって信仰が左右されることなく、神ご自身のみことばによって生きましょう。また安心なときも主の恵と守りがあってのことですから、

それを忘れないで、主に従いましょう。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



3:1 カナンでの戦いを少しも知らないすべてのイスラエルを試みるために、主が残しておかれた国民は次のとおり。

2 「これはただイスラエルの次の世代の者、これまで戦いを知らない者たちに、戦いを教え、知らせるためである—

3 すなわち、ベリシテ人の五人の領主と、すべてのカナン人とシドン人とバアル・ヘルモン山からレボ・ハマテまでのレバノン山に住んでいたヒビ人とであった。

4 これは、主がモーセを通して先祖たちに命じた命令に、イスラエルが聞き従うかどうか、これらの者によってイスラエルを試み、そして知るためであった。

5 イスラエル人は、カナン人、ヘテ人、エモリ人、ベリジ人、ヒビ人、エブス人の間に住んで、

6 彼らの娘たちを自分たちの妻にめとり、また自分たちの娘を彼らの息子たちに与え、彼らの神々に仕えた。

7 こうして、イスラエル人は、主の目の前に悪を行い、彼らの神、主を忘れて、バアルやアシェラに仕えた。

8 それで、主の怒りがイスラエルに向かって燃え上がり、主は彼らをアラム・ナハライムの王クシャン・リシュアタイムの手に売り渡された。こうして、イスラエル人は、八年の間、クシャン・リシュアタイムに仕えた。

9 イスラエル人が主に呼び求めたとき、主はイスラエル人のために、彼らを救うひとりの救助者、カレブの弟ケナズの子オテニエルを起こされた。

10 主の霊が彼の上にあった。彼はイスラエ

ルをさばき、戦いに出て行った。主はアラムの王クシャン・リシュアタイムを彼の手に渡された。それで彼の勢力はクシャン・リシュアタイムを押さえた。

11 こうして、この国は四十年の間、穏やかであった。その後、ケナズの子オテニエルは死んだ。

「試みるために、主が残しておかれた」とありますが、もともとはイスラエルが主に背いて共存を選んだものです。主はそれを直接の介入で絶つことをせずに、イスラエルを試みるために「残しておかれた」わけです。

このように誘惑や罪は私たち人間に非がありますが、主がそれさえも主権のものに置かれるのです。人間が「神によって誘惑された、苦しめられた」などと言ってはならないのはそのためです。

なぜイスラエルは異教の民と同化したのでしょうか。それはかつて、先祖のヤコブやユダがそうであったように、安全と打算のゆえです。主により頼み期待するよりも、人間に求め、さらには信仰までも歪めてしまったのです。次第に霊的に無感覚になってしまい、「バアルやアシェラに仕え」るようにさえなってしまうました。

イスラエルは他民族に助けられると思っていましたが、結局別の民族であるアラム・ナハライムの王によって攻められ、そして屈したのです。異教は何の助けにはなりませんでした。

使徒の働きには「全ての民から好意を持たれた」とありますが、それとはまったく違うものです。初代教会のクリスチャンたちは福音宣教のためにしたのであって、打算からではありませんでした。むしろ主のためなら命も財産もささげる覚悟ができていたのです。

主は常に私たちを「試みて」おられますが、それは怖いものではありません。試みつつ、みことばによって教えてくださり、愛を持って正しくくださるのです。主との交わりがいかに大切に氣

づかされます

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

